

秋田県横手市

秋田県立横手清陵学院中学校・高等学校

- 学科等 / 中高一貫・総合技術科
- クラス数 / 中学校7クラス、高等学校15クラス
- 生徒数 / 中学校240人、高等学校583人
- 建築主 / 秋田県
- 所在地 / 秋田県横手市大沢字前田147-1
- 工事種別 / 改築
- 敷地面積 / 83,980m²
- 延床面積 / 24,457m²
- 竣工 / 2004年11月

気候風土に適応しながら
多様な活動が見える空間

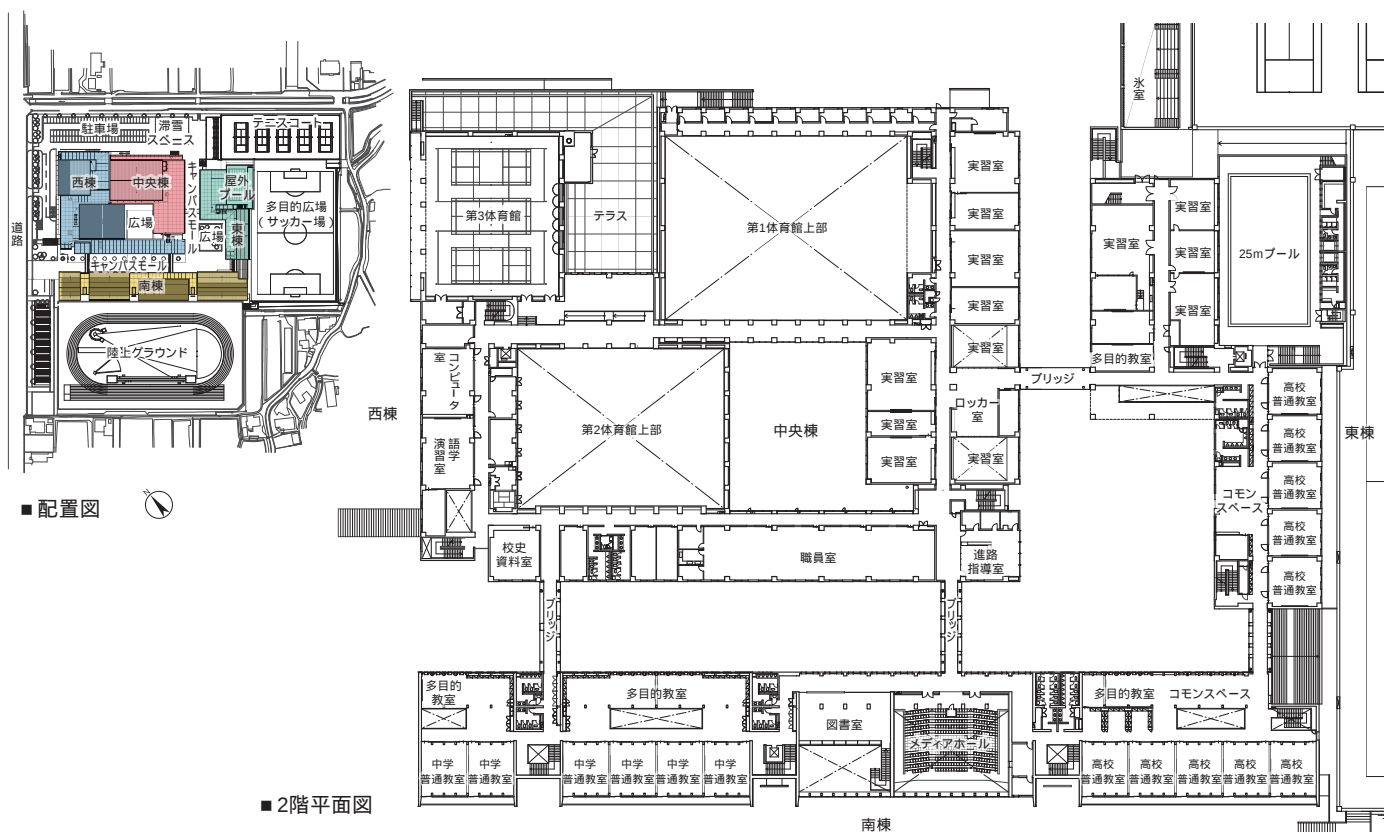
気候風土との適合を図りながら、多様な活動を包み込む、ぬくもりあふれる空間を創造。「見える」「見せる」工夫で施設を学びに活用。雪冷房などのシステムも環境学習の生きた教材とする。



中庭から見たキャンパスモールと2階レベルをつなぐブリッジ。

計画に見られる 指針改訂のポイント

- 1.主体性を養う空間の充実
- 2.キャリア教育・職業教育の充実
- 3.環境面への配慮



1. 主体性を養う空間の充実

└ 多様な活動を包み込むぬくもりあふれる空間



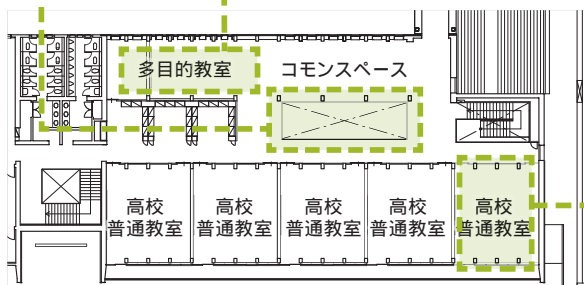
1 南棟2階東側。大断面集成材の木架構が連続し、木のぬくもりあふれる空間のなかで学ぶことができる。



2 南棟東側の高校1年生が使用する多目的教室。生徒が食事や対話等に自由に利用することもできる。



4 南棟2階の普通教室。



3 南棟2階東側の普通教室とコモンスペース平面図。

校長の視点

木のぬくもりを感じながら学ぶ

校舎は、普通教室群を配したL型の南棟・東棟、体育館・実習室・管理諸室をまとめた西棟・中央棟で構成されます。冬期、雪に覆われ棟間の往来が難しくなるため、各棟をブリッジでつなぎ、学校生活の中心レベルを2階にしています。南棟2階は大断面集成材による150mの連続した美しい架構です。また、体育館・図書館の格子壁、廊下天井のルーバーなど、木を

ふんだんに使い、ぬくもりがあふれる安らぎの空間の中で学ぶことができます。(写真1、2、4)

さまざまな授業が可能なコモンスペース

少人数学習やグループ学習などが行えるコモンスペース(多目的スペース・多目的教室)を普通教室の前に設けています。ここでは、授業の途中からクラスを2つに分けて、チームティーチングや

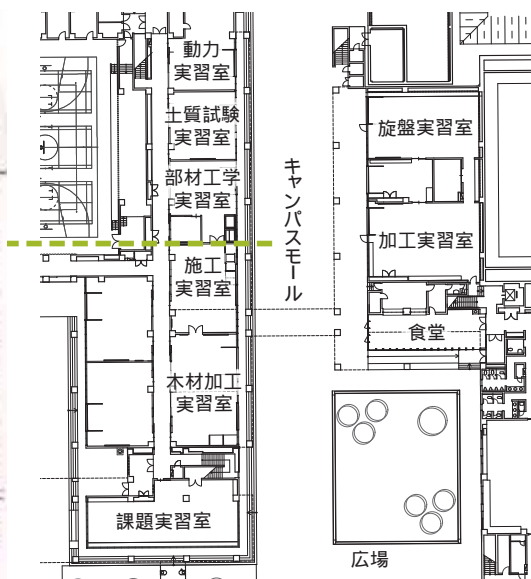
習熟度に応じた授業などが迅速に行えます。さまざまな授業のスタイルが可能になったのは非常に便利です。(写真2)施設の利用については中学校と高等学校で基本的には区別していません。学校行事も合同で行い、部活動も一部合同にするなど、学校全体で交流の機会を持つようにしています。(写真8)

2. キャリア教育・職業教育の充実

「見える」「見せる」工夫で施設を学びに活用



5 高校生の実習風景が中学生にも見えるように、キャンパスモール沿いに実習室を配した。多様な進路選択の一助となるように工夫されている。



6 キャンパスモール沿いに各実習室が配されている。



7 雪から守られたコリドーに沿って活動成果を展示するギャラリーを配した。これも「見える」工夫のひとつだ。



8 南棟の図書館閲覧室。高校生も中学生も区別せず利用できることで、交流のスペースにもなっている。

教職員の視点

気候風土に適合する 環境共生キャンパス

雪冷房設備や自然換気を促すソーラーチムニーを採用し、気候風土に適合する環境共生キャンパスの実現を図っています。これらの施設は「地球環境に関する学習を大切にする学校」の理念に基づき、生徒たちの地球環境や新エネルギーへの理解、関心を深めるため、環境学習の教材としても活用しています。氷室には約900t(1,800m³)の雪を貯蔵することが

でき、本校の冷房面積の約63%を担っています。(写真9、11、図10)

多様な活動が見え、 触発しあう環境

工学系選択科目が多くあることから、進路選択の一助となるような施設環境としました。

実習室群を取り囲むようにしてキャンパスモールや中庭を配置し、技術実習を大きなガラスを通して見られるように工

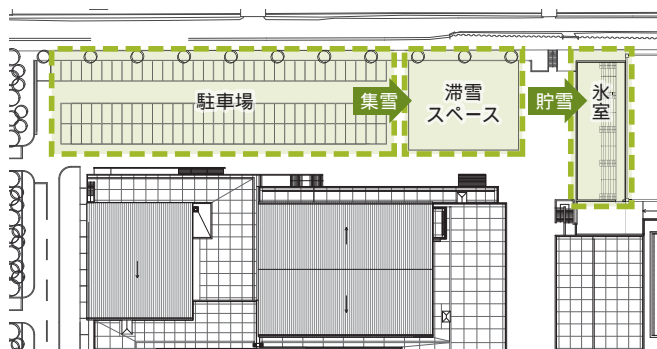
夫しています。また、雪から守られたコリドー(回廊)に沿って生徒の活動成果を展示する情報展示ギャラリーを設けるなど、多様な活動が見え、触発しあう環境となっています。(写真5、7、図6)

3 環境面への配慮

└ 気候風土との適合を図り、環境学習の生きた教材に



9 雪冷房のための氷室外観(正面)。雪を貯蔵する様子。



10 氷室の配置図。駐車場に滞雪した雪をそのまま氷室に詰め込む。



11 雪冷房システムは環境学習の教材としても活用されている。



12 煙突のようにみえるのが自然換気を促すソーラーチムニー。



13 太陽光発電の結果をモニターに表示し、環境に対する関心を高める。

設計者の視点

秋田県初の試みとして、県民の意見を施設計画に反映すべく、基本設計と同時並行で横手市民を中心とした県民約50人が参加したワークショップが行われました。そのなかで、都市的な環境の構築、多様な活動の誘発、気候風土との応答の3つを設計テーマに沿って計画することが決まりました。

本校で導入した雪冷房設備は、駐車場に滞雪した雪をそのまま氷室に詰め込むため、除雪費用が削減で

き、また、貯蔵した雪を夏期の冷房熱源とするので、環境負荷を大幅に削減します。駐車場とテニスコートの敷地の高低差約4.3mを利用して、擁壁兼用の雪を貯蔵する氷室を配置。氷室の屋根面はテニスコートの観覧席に活用しています。(写真9、11、図10)

(設計/日本設計)